

第14回 善通寺市学校等再編整備討委員会 概要

1. 日 時 令和7年12月15日(月) 午後7時～午後8時10分
場 所 善通寺市役所4階 401～403会議室

2. 出席委員

片山 昭彦	委員	高畑 智	委員
畑田 裕康	委員	米村 徹	委員
大林 勇太	委員	横田 飛真	委員
宮武 有奈	委員	徳山 恵	委員
田嶋 三枝	委員	町田 由紀	委員
井内 礼子	委員	田中 康隆	委員
松村 早記	委員	草薙 めぐみ	委員
高畑 光宏	委員		

3. 市側出席者

教育部長 尾松 幸夫

学校再編対策課

課長 山地 匠 課長補佐 内田 貴史 課長補佐 林 健一郎

教育総務課

課長 高畑 往立

4. 議 事

グループワーク 小学校2校の配置(案)及びこども園の配置(案)について
全体会議

5. 概 要

〔事務局〕

本日は、昼間のお仕事等でお疲れのところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第14回の学校等再編整備検討委員会を開催します。片山会長、進行の方をよろしくお願いします。

〔会長〕

12月で皆さんお忙しいとは思いますが、お集りいただきありがとうございます。本日も、色々と意見を出していただき、良い方向に議論を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは議事に入りたいと思います。今回も、ご案内のとおり、まずはグループワークで議論をしていただきます。なお、採決をとるのではなく、議論の中で出た色々な意見を事務局に提出し、まとめていただくという流れで進めたいと思います。グループワークの時間は非公開としますので、忌憚のないご意見を出していただき、より議論を深めてください。まず、本日の進め方と資料についての説明を事務局からお願いします。

〔事務局〕

本日の進め方を説明します。今回のグループワークでは、小学校2校とこども園の残り1園をどこに配置するかということについて議論していただきたいと思います。

これまでの2校案、3校案などよりも選択肢が多いため、様々な意見があると思いますので、まずはグループワークでご自身の考える配置案を出し合っていただきたいと思います。事務局が資料で示しているものは、たたき台としてお示ししていますのでそれに捉われない意見をいただければと思います。もちろん、校区分けについての意見でも構いません。全体会議の最初に、どういった意見が出たのかを発表していただきます。

それでは、資料説明をさせていただきますが、その前に資料の確認をお願いします。資料の上側に資料番号を示していますので確認してください。まず資料1、町別・年齢別の人口予測の資料です。次に、A3の資料1-1から1-4の4枚です。次に資料2-1から2-8ですが、学校の敷地の図面が8枚あります。最後に今回の資料ではありませんが、先日行われました市民団体による学校再編のワークショップの資料を、参考にお配りしています。目を通していただければと思います。これらの資料について、不足はないで

しょうか。

それでは、資料の説明をさせていただきます。

まず、資料1、町ごとの6歳から11歳の人口の表になります。これは町ごとの児童数を推計するのに、便宜上6歳を1年生、11歳を6年生として数えたものです。2025年直近の人口と、2035年の予測値を記載しています。

次に資料1-1から1-4までのA3の地図、これは前回までにおいてもお示ししてきた小学校の配置案について、仮に校区を設定してみたものです。1-4については、これまで何度か話に出てきた新規候補地案になりますが、仮にそこに学校を配置したらという資料です。

前回までは校区ごとの児童数しか推計していませんでしたが、今回、資料1のように、町ごとの児童数を推計しましたので、校区分けによる児童数の変化を前回までよりは若干細かく推計することができています。

図の見方ですが、地図上にマル①、マル②とあるのが、再編後の2つの小学校の場所を示しています。資料1-1ですと、マル①が東部小学校の位置、マル②が西中学校の位置になります。その番号を中心として赤いマル枠がありますが、これは、学校を中心にして半径2kmの範囲を示しています。

ここで、ひとつ情報を追加しておきたいのですが、文科省が示している目安としては、徒歩通学はおおむね4km、通学時間として1時間以内ということです。もちろん、1年生と6年生では体力も違いますし、通学路の状況、交通量の多い幹線道路なのか、細い農道なのか、保護者や地域の見守り体制、夏の暑さ、そういう様々な条件を踏まえて距離だけでなく安全性や時間でも判断しなければなりません。

今は、仮に2kmとしていますが、どこかで徒歩通学の範囲についても議論しておく必要があるかもしれません。

地図上にある青い太線は、仮に設定した校区の境です。できるだけ現在の校区を割らないように考えながら作成したつもりではありますが、どうしてもそうはなっていない部分もあります。これをたたき台として、新しい校区分けや学校の位置を議論していただければと思います。

図の左上と左下に表示している情報については、仮に分けた校区ごとの情報になりま

す。児童数は、この校区分けにした場合におけるその校区の児童数の 2035 年、2040 年、2050 年の予測値です。

資料 1-1 のマル①の学校の場合、2035 年の予測では、全校児童数は 750 人で、クラス数は 1 年生から 6 年生まですべての学年で 4 クラスありますが、2050 年には児童数が 661 人に減少し、2 年生はクラスが 4 クラスから 3 クラスになるという予測です。

その下の校舎面積は、現行の校舎の面積と、児童数から算出した最低限必要な面積を表示しています。校舎面積が赤文字になっているのは、必要面積を満たしていないことを表しています。運動場の面積についても、同様です。

バスの運営費用につきましては、前回の考え方と同じですが、町ごとの児童数を算出したことで、これまでよりは細かくスクールバスの利用人数を推測しています。

また、前回はバスの往復回数を 1 往復か 2 往復以上かという 2 通りでしか表現していませんでしたが、今回は、実際、何往復必要なのか、始業時間に間に合わせるためには何台必要なのかまで考えてみました。マル①校区でいうと 2 km の範囲を超えるところは、中村町、金蔵寺町、原田町、木徳町、与北町のそれぞれ一部になります。例えば、中村町ですと、資料 1 を見ると 2035 年は 120 人になっていて、推測になりますが、地図上の 2 km 圏外の部分、つまり、赤枠から外れた部分の面積が中村町全体の約 2 割として、120 人の 2 割で 24 人、中村町でバスを利用する児童は 24 人という考え方で全地域推測しています。

また、前回のスクールバスは 27 人乗りのマイクロバスで費用を積算しましたが、バスの往復回数を減らすためにより大きいものを検討してはどうかというご意見もありましたので、今回は場所によっては 40 人乗りの中型バスを計算に入れています。前回のように地図上に矢印でバスの路線を表示すると、矢印の数が多すぎてかえって分かりにくくなってしまったので、結果の数値だけを表示しています。マル①校区のバス運営でいいますと 40 人乗り 3 台、27 人乗り 1 台の運用で、バスの購入費含めて合計 8,600 万円となっており、バス購入費を差し引くと毎年 3,500 万円の委託料が必要になると見込んでいます。

最後に資料 2-1 から 2-8 の学校の施設図面ですが、前回、借地の情報が欲しいというご意見がありましたので用意しました。8 小学校すべての図面がありますが、借地の部

分は赤い枠で表示している部分です。実際に借地があるのは、東部小学校、西部小学校、南部小学校、吉原小学校の4校です。資料についての説明は以上です。

それでは、グループワークを始めていただきたいのですが、前回同様、次回の資料としたいので、メモ書き程度で結構ですのでどなたかに記録係をお願いします。記録は会議後、回収させていただきます。グループワークの後、その記録をもとに全体会議の最初にどなたかに発表していただきますので、発表者も決めておいてください。よろしくお願いします。

〔会長〕

それでは、19時40分までグループワークを進めてください

〔委員 A〕

グループワークに入る前に質問なのですが、4つのパターンについて建設費用が均一ではないと考えますがいかがですか。

〔事務局〕

今回の資料について、建設費用の記載はありませんが、どのパターンにおいても新築になるのではないかと考えています。現行の校舎を改築・増築して対応するのは難しいと思われるので全て新築する方向で検討しています。

〔委員 A〕

それは、竜川小学校案についても同じでしょうか。今ある建物は全て取り壊し、新たに校舎を建てるという認識でよいですか。

〔事務局〕

はい、そのような見込です。

〔委員 B〕

借地に関する情報をいただきありがとうございます。借地が関係するのは、資料の中では東部小学校案だけだと思いますが、それ以外に土地購入案もあり、借地料が分からなければ議論のしようがないかと思っています。

また、土地の購入プランについて、その土地がどのくらいの価格なのかが分かれば比較検討ができると思うのですがどうでしょうか。

〔事務局〕

借地料については、資料には記載していませんが、貸主をご存じの方もいらっしゃると思いますので、具体的にお示しするとどれだけの金額を貸主にお支払いしているのかということが明確になってしまい、そこが焦点になってしまうのもいかがかと思いますので、借地料を表示するのを控えさせていただきました。

どちらにしても、何億、何十億という規模の議論をする中では、それほど大きな金額ではありませんので、まずは土地の賃貸借料抜きで議論していただきたいと思います。

また、新規候補地については、事務局としては情報を持っておりません。だいたいの場所は把握しておりますので、必要であれば、その土地を取得する場合の参考費用のようなものを試算することも可能かとは思いますが。

〔議長〕

資料中の校舎面積について、赤字は、2035 年の人員の時点で足りないという理解でよいですか。

〔事務局〕

そのとおりです。

〔議長〕

他に質問はないようですので、グループワークを始めてください。議論の途中で疑問点など出ましたら、議論は継続していただき、発表の時点で疑問点についても述べていただきますようお願いします。

～グループワーク（非公開）～

〔議長〕

それでは、グループごとに発表してください。

〔グループ A〕

4 案ありましたが、まず、借地の案と面積が足りない案は、除外しました。

資料 1-2 の竜川小学校案と、資料 1-4 の新規候補地案について検討したのですが、資料 1-4 は 1 年生と 2 年生が 2 クラスとなり生徒数のバランスが良くないところ、また、

こども園と小学校はより近い場所でより連携できる方がいいと思いますので、両施設が近くに建設される資料 1-2 が良いという意見にまとまりました。

〔グループ B〕

資料 1-1 は道路や敷地の問題があり、資料 1-3 は資料 1-1 と同様の問題がさらに大きく、資料 1-4 だとクラスのバランスが悪いということで、エリアが比較的重なっておらずクラス編成のバランスの良い資料 1-2 の竜川小学校案が良いという意見にまとまりました。

〔グループ C〕

面積や借地の問題があるので、資料 1-1 と資料 1-3 は現実的に厳しいのではないかという意見がでました。ただ、校区割については、資料 1-3 の校区割の線がきれいでクラス数も安定しているのが良いという意見が出ました。しかし、資料 1-3 の筆岡小学校の土地は敷地面積などの条件で厳しいと思い除外しました。

資料 1-2 と資料 1-4 について比較したところ、資料 1-2 だとバスの運行などのランニングコスト的な面でメリットが多いのではないかという意見も出ましたが、最後まで分からなかったのが資料 1-4 で土地を購入するとして、その面積がどれくらいなのかということであり、もし、小学校を建設しても余裕があるようなら、こども園や学童保育の施設などを集約して配置することで、行政としてコンパクトシティ化と子育て支援の強いメッセージが打ち出せるのではないかという話になりました。

また、資料 1-2 の竜川小学校の土地は、仮に学校用地に使わなくても売却することが可能だと思われるので、資料 1-4 も一つの選択肢ではないかという意見がでました。

〔グループ D〕

資料 1-3 は面積が狭くバスも入りにくいため除外しました。その他の 3 案について検討したところ、資料 1-2 がこども園と隣接するメリットがあるという意見が出ました。ただ、バスの乗り入れが現在難しいので、建て替えるのであれば道沿いにバスのロータリーをつくるなどで対策は可能かと思います。

資料 1-1 は借地料が発生することと面積が狭いことがマイナスだという意見がでました。資料 1-4 は土地の購入費用や面積が分からないので、分からないということになりました。最終的に、資料 1-2 がバスの運営費も他の案より抑えられるので、資料 1-2

が良いのではないかという意見にまとまりました。

〔議長〕

資料 1-2 の竜川小学校案のメリットは多く出てきましたが、逆にデメリットはありませんか。

〔委員 C〕

建て替えているときに児童はどこに行けばよいのかという疑問がでました。資料 1-4 だと新しく建てるので問題ないと思うのですが、資料 1-2 は移行期間のデメリットがあるのではないかという意見がありました。

〔議長〕

最良案として、資料 1-2 が 3 グループ、資料 1-4 が 1 グループで挙がりましたが、これらに加えて他に考えられる案があれば事務局に資料の作成など依頼したいと思います。少し時間をとりますので、他の案がないか検討してみてください。

～グループワーク（第 5 の案の可能性について）～

〔議長〕

それでは、グループごとに発表をお願いします。

〔グループ A〕

資料 1-4 について、校区の線引きを資料 1-3 のようにすれば適切なクラスのバランスが保てるし、また、ある程度の土地が確保できればこども園を隣接できたりするのかなという意見がでました。

〔グループ B〕

特にはありません。他の案を考えれば考えるほどデメリットが出ましたので、資料 1-2 で良いのではないかとりました。

〔グループ C〕

資料 1-4 にしっかりと面積がとれるのであれば、北と南できれいに校区が分かれるので、資料 1-4 も選択肢に入るのではないかという意見がありました。資料 1-4 だと新しくできたところに皆が集まってくるわけで、移行の仕方としてはきれいだと思います。

資料 1-2 だと人数が多いから竜川小学校なのかという意見が出やすいと思います。これから家を建てる人はおそらく新しい小学校の周りに建てるでしょうから、資料 1-4 であれば竜川ばかりということではなくなるので、資料 1-4 で小学校を建てた時のデメリットは徐々に緩和されていくのではないかという意見ができました。

〔グループ D〕

資料 1-2 について、今の駐車場にこども園を建てる場合、駐車場が足りなくなるかもしれないので、その場合、土地の買い増しなど考えないといけないかもしれないという意見ができました。

〔議長〕

それでは、次回に向けて事務局に資料を作成してもらいますが、その際に必要な資料などありますか。

〔委員 C〕

資料 1-4 に関して、敷地の広さや購入金額などの情報が必要だと思います。

〔委員 A〕

もし可能であれば、資料 1-2 で竜川小学校を建て替える場合、建て替える期間に児童がどう過ごすか、仮校舎が必要だと思うのですが、その辺りのイメージが湧かないので何か資料があればと思います。

〔事務局〕

運動場なりに新校舎を建て、新校舎が建つまでは現校舎で児童が過ごす、というのがオーソドックスです。体育の授業をどうするのかといった問題は解決しないといけないのですが、新校舎を建てる場所は運動場が一番の候補になるのではないかと考えています。

〔委員 A〕

新校舎は、だいたいどれくらいの期間で建設できますか。

〔事務局〕

こども園が約 18 カ月なので、小学校はそれ以上の期間が必要だと思います。

〔委員 B〕

運動場に新校舎を建てる場合、新たに運動場を整備すると思いますが、体育館についてはどうなりますか。

〔事務局〕

現時点では体育館の計算をしておりませんが、立替えなどを検討しないといけないかもしれません。

〔委員 A〕

類似の事例から、情報を得ることはできますか。

〔事務局〕

近隣の事例などを調べてみます。

〔議長〕

まとめますと、資料 1-2 と資料 1-4 に関する資料、資料 1-4 については資料 1-3 の校区割を参考にしながら購入する土地の広さや費用に関する資料、資料 1-2 については立替えの仕方に関する資料が必要だということになります。

〔委員 D〕

資料 1-4 は、十分な広さの土地を確保できるという見込がありますか。

〔事務局〕

実際に調査を進めてみないと確実なことは分かりません。

〔議長〕

そのほか、バスの経路などの資料も、事務局での検討をお願いします。

今回は、資料 1-2 と資料 1-4 をベースにより具体的にメリット・デメリットを検討します。それに加えて、こども園の場所も議論しなくてはなりません。

次回までに何か必要な資料などありましたら、事務局へ連絡していただければと思います。

〔議長〕

他に、何か意見などありますか。

〔委員・事務局〕

特に意見・連絡事項なし

〔議長〕

それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了します。

今回は 1 月 19 日の月曜日になります。良い年末年始をお過ごしください。

本日は、ありがとうございました。

20時10分 終了